

兵庫県保険医協会 政策研究会

社会保障の財源論

- 企業の内部留保をめぐって -

日時 12月7日(土) 17時～

会場 兵庫県保険医協会会議室

講師 小栗 崇資 先生

(駒澤大学経済学部教授・経済学部長)



小栗 崇資 (おぐり・たかし) 先生ご略歴

1950年愛知県生まれ。中央大学法学部卒業、明治大学大学院博士課程修了、商学博士。日本福祉大学助教授を経て、現在、駒澤大学経済学部教授、経済学部長。専門は財務会計論、経営分析論。主要な業績は以下の通り。<著書>『小さな会社が日本を変える一事例で考える21世紀型企業像』リトル出版、『アメリカ連結会計作成史論』日本経済新聞社(日本会計史学会賞受賞)、『日本のビッグインダストリー—自動車』大月書店、『新世紀の企業会計論』白桃書房、『国際会計基準を考える—変わる経済と経営』大月書店、『内部留保の経営分析—過剰高積の実態と活用』学習の友社。<論文>『内部留保の活用への活用は可能か』『経済』2009年5月号、『震災復興のための内部留保の活用』『経済』2011年6月号、『内部留保論の現代的課題 その全体像と分析方法』『経済』2012年9月号、『内部留保分析の現代的展開—内部留保の実態と活用』『中央大学商学論叢』第53巻第5・6号

安倍内閣は来年度4月からの消費増税を「決断した」と表明しました。その一方復興法人税を前倒しして廃止し、そして法人税減税も検討されており、庶民に増税し、大企業には減税する姿勢が明らかです。所得が大きく減っている国民から8兆円奪い、270兆円もの内部留保を抱える大企業を減税をするのは道理に合いません。

そこで、今回は企業会計の専門家である小栗崇資駒澤大学経済学部教授に「社会保障の財源論-企業の内部留保をめぐって」と題して、ご講演いただきます。社会保障を考える上で、日本経済の現状とその再生に向けて内部留保とは何か、その実態と活用、および関連して法人税制の現状と問題点などについてお話いただきます。皆さん、ぜひご参加ください。

兵庫県保険医協会 政策研究会 「社会保障の財源論-企業の内部留保をめぐって-」(12/7)

準備のため、参加のご都合をFAX078-393-1802までご連絡ください。この件に関するお問い合わせは、協会事務局078-393-1807(担当:平田)まで

□参加する

地区

氏名

今年もやります!

明石支部主催のクリスマスパーティも3回目を迎えました。今回の会場は、明石駅から徒歩10分の『MURPHY'S IRISH BAR』貸切!種類豊富なお酒等の飲み放題とローストチキンやキッシュなど欧風料理食べ放題です。ゲストは毎年好評の、数々のマジックコンテストで1位や金賞を受賞されている Tricker Loki さんをお招きし、テーブルマジック等でお楽しみいただきます。そのほか、ビンゴゲームもご用意、小学生にはお菓子のプレゼントも!



日時: 12月21日(土) 18:00~20:00

会場: MURPHY'S IRISH BAR

明石市相生町2-4-23サミットシティビル1F・明石駅から徒歩10分 保健センター西隣

参加費: 未定 (FAXでご連絡します)

定員: 40人

お問い合わせは ☎078-393-1807 平田まで

保険医協会の共済制度をお勧めします!

病気やケガの休業に備えて、高い保険料を払っていませんか?

1月25日締切

休業保障制度

ただいま好評受付中!

(2014年4月1日発足)

- 1. 割安な掛金が満期まで上がりません
- 2. 掛け捨てではありません
- 3. 最長75歳まで、730日の長期保障
- 4. 弔慰・高度障害給付あり
- 5. うつ病等の精神疾患、認知症も給付
- 6. 妊娠・出産に起因する併発病、帝王切開も給付
- 7. 自宅療養、代診をおいても給付
- 8. 所得補償保険との重複受給OK

協会の団体定期生命保険

毎月10日締切

グループ保険

過去5年平均の配当率は47%。団体保険だから断然安い保険料/最高5000万円の高額保障/配偶者1000万円のセット加入あり/いつでも増額・減額できます/面倒な医師による診査は不要

死亡保険は安さが一番です。いま話題のネット生保と比べてください。

お問合せは共済部まで ☎078-393-1805



明石支部
No. 263
2013-11-25
投稿歓迎!

兵庫県保険医協会明石支部
支部長 吉岡 巖
神戸市中央区海岸通一丁目二番三十一号
神戸フコク生命海岸通ビル五階
TEL 078-3393118 (代)
FAX 078-3393118

明石支部総会市民公開企画 映画『エンディングノート』無料上映会&ミニ講演会 「最期」に向けた取り組み考える



明石支部は9月21日、アスピア明石の午線ホールで、第30回総会記念企画「映画『エンディングノート』上映会&講演会」を開催。治療病院の緩和ケアを開

参加者の中には「エンディングノート」を執筆中の人も

催。市民ら220人が参加した。講演会では兵庫県立がんセンター地域医療連携・緩和医療担当部長の池垣淳一先生が講師を務めた。池垣先生は、「認知症であれば、数年かけて悪化し、心疾患や脳疾患は症状が一定せず入退院を繰り返す。それに比べ、がんは亡くなる直前1、2カ月で急激に症状が悪化する。つまり、逆に言えば死亡直前1、2カ月前までは普通の人と同じような生活ができるし、がんの痛みは98%以上、コントロールできる」と、がんにおける緩和ケアのメリットを紹介した。

「エンディング・ノート」は、サラリーマン・砂田知

昭氏が67歳で末期がんが発覚し、人生の総括のために行ったさまざまな取り組みを追ったドキュメンタリー映画。

参加者からは「エンディング・ノートの作成に参考になった」「経済的になかなか映画のような最期は迎えられないのでは」「家族がおられなかったり、孤独死される方が多い時代に子供たちや孫に囲まれて最期を過ごされる主人公の姿を見て、とても幸せだと思いました。私もがん患者として映画の主人公のような最期でありたいとおもいました」などの感想が寄せられました。

総会議事では今年度の支部方針を確認した。

会員署名を政府に提出

「70歳からの患者負担1割と診療報酬引き上げを求める会員署名」

協会が呼びかけた「70歳からの患者負担1割と診療報酬引き上げを求める会員署名」に明石支部から、237筆が集まった。協会全体では455筆が集まった。寄せられた一言を紹介する。



赤石厚労政務官に署名を渡す池内春樹理事長(写真上・左) 係官に署名を渡す武村義人副理事長(写真下・右から3人目)

私の「ひとこと」

・大企業の法人税を下げた税収を減らしたり、優遇して補助金を出したりするのは止めて、医療・福祉にこそ国のお金を使うべきです。

・この年代の方々は戦後の日本の高度経済成長を支えてきた人々であります。はじめに勤勉に働いて、世界第2の経済大国に押し上げた功労者に対する仕打ちはひどい。

- 1 医師、歯科医師、看護師、コメディカルの技術料を引き上げること。
- 2 急性期病棟の新たな入院基本料を策定し、現行の7対1入院基本料の大幅な削減を行わないこと。
- 3 夜間・休日の初・再診料を大幅に引き上げること。

明石支部では、企画を募集していきます。文化行事から臨床研究会まで、お気軽に事務局までご連絡ください。